授業部門　小学校の部　エントリーNO.1

小６算数 「願いを学びの出発点に、問い－価値－共創へ、仲間と心をつなぐ算数の授業実践」

オクリンクプラス
ドリルパーク

- **問いと振り返りを可視化し、学びの意味を共有するためのオクリンクプラス活用**
- **基礎理解を確かめたい児童が、自分の判断で学び直すためのドリルパーク活用**

活用背景・ねらい

本校では「誰一人取り残さない」を基軸に、「自分で決めて学びを進める子ども」の育成を進めている。しかし、学年が上がるにつれて習熟度差が広がり、授業についていけず自信を失う児童や、既習内容となり学ぶ必然性を感じにくい児童が同一教室内に混在していた。実践初期の振り返りからは、学習が「どれだけ進んだか」「終わったか」といった量的達成で捉えられ、学ぶ意味や価値を見出しにくい状況も見られた。そこで、学習内容の理解にとどまらず、「何のために学ぶのか」という意味を創り出し、主体的に学びを進める力を育てることをねらいとした。

成果・効果

実践を通して、児童の学びには質的な変化が見られた。初期には量的達成を基準とする振り返りが多かったが、次第に自ら問いを立て、「もっと深めたい」「他の人の役に立ちたい」といった視点が加わっていった。後期には、「皆が理解できるように」「苦手な人も算数を好きになれるように」と、他者を意識した問いが多く見られるようになった。国語科で行った学期末の自由記述でも、全体の約4割の児童が算数の学びに言及しており、算数の学習が教科の枠を越え、価値観や行動意識に影響を与えていることがうかがえた。

授業・取り組みの流れ

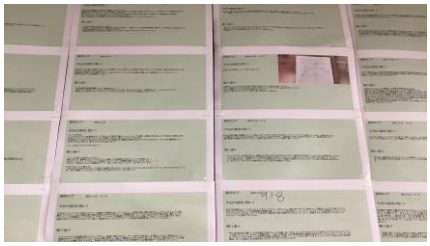
① 単元前半における基礎内容の学習と問いの共有
全員で基礎的内容を学習した上で、**そこで生まれた問いをクラスの問いとして共有**する。後半の探究学習に向けて**願いの芽を育む**。

② 学びの振り返りと現在地の可視化
各時の導入では前時の振り返りをオクリンクプラスのカードで共有する。児童は仲間の振り返りから**自分にとっての学ぶ意味や願いに触れる。**自分は**どのような願いをもって学んでいるか、何に課題を感じているかを整理**し、本時の学習に向かう準備を行う。

③ 問い（目当て）の設定
児童は、オクリンクプラスのカードを活用し、自分の疑問や深めたいことをもとに本時の問いを決める。**問いを立てたこと自体を児童の願いの発露と受け止め、それを学びの出発点**として位置づける。

④ 選択による探究の実行
展開では、個別またはグループで探究を進める。基礎を確かめたい児童は教科書やドリルパークを活用し、テストパークで理解を確認する。理解が進んだ児童は、**自分の願いに応じて探究を深める。**

⑤ 願いの共有から生まれる学びの共創
まとめでは、本時の探究をオクリンクプラスの提出ボックスに記録し、次に**深めたい問いや見出した価値を言語化**する。学年全体で**探究の成果を共有**し、互いの願いが届き、響き合うことで、学びを個人内の理解から、**他者と価値を生み出す学びへと広げていく。**児童は**自分にとっての学ぶ意味や価値を深め、次の学びへと願いがつながっていく。**



②多様な問いを可視化

④探究の成果をレポートでまとめる

⑤共創の場「探究フェス」の全体マップ